

図書館協議会会議録

と き 平成 23 年 8 月 26 日 (金)
午前 10 時から午前 11 時 30 分
ところ 名張市立図書館 2 階 視聴覚室

出席者：協議会委員 澤田、湯浅、山中、高倉、岩見、平井、山岡
(欠席者：久保)

教育委員 松尾
事務局 木村、宮前

1 あいさつ

松尾教育委員

2 議事

(1) 平成 22 年度図書館利用状況について

事務局より報告する。(別添資料「平成 22 年度図書館利用統計」)

委員からの主な意見

民間委託を検討していたときに年間 58 万冊の貸出冊数を目標値とし、これを超えた貸出冊数になっているとのことだが、その要因は何であると考えているか。開館日数、開館時間が増えたことが要因か。

単純にそれだけではないと考えている。いろいろな工夫でサービス展開を行ってきた結果と考えている。1 日平均の貸出冊数が 2,000 冊を超えるようになったことが大きい。

一日のうちでたくさん利用される時間帯はいつか。

二つの山があって、ひとつは午前 11 時から正午まで、もうひとつは午後 2 時から午後 3 時までの時間帯である。

他館への貸出で、三重県内では県立図書館について貸出冊数が多いということだが、どういった分野の図書が多いのか。

はっきりした統計はないが、県内の図書館職員間の会話の中では、ライトノベルの分野が多いようだ。これは、名張市民の要求も多い分野である。

ビデオ・CDの利用人数が減っているが、その要因は何か。

AV資料は館内視聴のみの利用としている。機器の保守・更新などに対応しきれないため、資料の購入は減少傾向にある。一方、名作映画の上映会は好評で、定着してきている。

「住民生活に光をそそぐ交付金」を使って、図書購入費に200万円充てられ平成23年度の前倒しとして平成22年度予算に配当された、ということだが、これは、交付金の本来の趣旨からいっておかしいのではないか。当協議会としては「名張市はおかしなことをやっている」という共通認識を持つておくべきだ。

政治学の分野で、非難回避のひとつの方法として不可視化というのがあるが、このことは、典型的な事例である。背景には名張市の財政事情があるかもしれないが、図書館行政はその原因を作っていないはずだ。

このことについての経緯と交付金の使途について説明をしかるべき立場の人からの説明を求めたい。

いったん持ち帰って後日あらためて回答する。

利用統計の数字はいい数字が出ている。蔵書の回転率は理想的な数字だ。4冊辺りが理想的な数字とされている。少なすぎると蔵書に魅力がないということで、多すぎると利用者が借りたくても借りられないということだ。

3 報告事項

名張市子ども読書活動推進計画策定について
事務局より報告

平成15年に第1次の推進計画が策定された。その後、いろいろな状況が変化し改定の必要性が内外から要請されていた。なかなか実現に至らなかったが、今年度と来年度にかけて第2次の推進計画を策定することになった。8月6日に第1回目の検討委員会を開催した。来年9月に策定する目途で作業

を進める。

4 その他

(1) 休館日の変更について

現在の図書館業務委託契約が平成 24 年 5 月 31 日までとなっている。次回の更新にあわせて休館日の変更を考えている。

具体的には、現在祝日開館を実施していて、ハッピーマンデーなどの月曜日も祝日と重なれば開館している。これを、すべての月曜日を休館とすることを検討している。

土日開館と、土日月開館の統計資料が追加でお渡しした資料である。月曜開館したからといって、飛躍的に利用が伸びているわけではない。土日二日間の利用が三日間に平均されたに近い。また、開館し続けることによって書架のメンテナンスが追いつかず、書架が荒れ、利用しにくい状況が現れている。

こういったことから、月曜日はすべて休館するように変更したいと考えている。

委員からの意見

このことは、委託業者からの提案なのかどうか。

そうではない。図書館の考えである。

ハッピーマンデーは他に行事の多い祝日であるから、利用増には結びつかないのかもしれない。月曜日は休館、と決めたほうが良いのかもしれない。

では、この方向で今後の事務を進めさせていただく。

(2) 協議会委員の任期について

今の任期が 9 月 30 日までとなっている。できれば引き続きお願いしたいと考えている。後日あらためてお願いさせていただくので、是非お引き受けいただきたい。

以上